

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493500142	事業の開始年月日	2010年8月1日
		指定年月日	2010年8月1日
法人名	有限会社 松田メディカルサービス		
事業所名	グループホーム 陽春の里		
所在地	(〒247-0015) 横浜市栄区中野町56-4		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日	平成23年8月10日	評価結果 市町村受理日	平成23年11月30日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>家庭的な雰囲気です。 毎日でも入浴はできます。 外出は自由です。 入居者様の希望をメニューに取り入れています。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年8月24日	評価機関 評価決定日	平成23年10月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、JR線大船駅からバスで15分程の、幹線道から一步入った住宅地にある。周囲には、緑の生い茂った公園やファミリーレストラン、生協などがある。建物は新築2階建てで、洋間が7部屋、和室が2部屋となっており、2階の居室からは富士山が望める。落ち着いた雰囲気の事業所で、利用者の表情は穏やかであった。</p> <p>【地域との交流】 職員を近隣から採用している事から地域の情報が収集しやすく、開所間もないが町内会へ加入している。また、染色など地域ケアプラザ主催の「ふれあいサロン」に定期的に参加したり、近隣のファミリーレストランや喫茶店などを利用したりして地域交流に努めている。コーラスや折り紙などのボランティアが訪問している。管理者は、認知症サポーター講座の講師の依頼を受け、他区の講座にも参加し地域貢献している。</p> <p>【外出の支援】 一人での散歩を希望する利用者数名は、家族の了解を得て電話を携帯し、近隣の散歩や横浜駅などへも出かけている。車にいると落ち着く利用者には、車に自由に出入りできるようにしたり、ドライブを兼ねた買物へ行くなどしている。</p> <p>【医療サービスの充実】 近隣に住む看護師を職員として採用している。週2回の出勤日以外の日でも相談等に対応しており、そのことが職員の安心感となっている。内科および歯科の協力医の往診があり、看護師は医師と連携し、適切な受診となるよう努めている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 陽春の里
ユニット名	こもれび

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践している。	「利用者が求める生活に基づいた援助を目指します」などの理念は、事務所に掲示し共有している。日々のケアの場面で管理者が職員に理念を確認し実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会した。近隣のケアプラザのイベントに定期的に参加している。	町内会行事の草取りや地域ケアプラザ主催の染色などに参加している。近隣の喫茶店を利用するなど地域交流に努めている。折り紙などのボランティアが訪問している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座などを行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町会長・地区の民生委員・地域住民・区役所の担当者などの方々が参加くださり、助言を頂いている。	運営推進会議の際に町内会長、民生委員、地域包括支援センターや区役所の職員、消防署員、利用者、家族が参加している。今年3月と8月に開催し、町内会への加入や消防署への連絡などが話されている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組んでいる。	運営推進会議の際に担当職員と話をしている。生活保護費を受給中の利用者が数名おり、担当職員と連携している。区のグループホーム連絡会やSOSネットワークに入会し、情報を交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解しているし、取り組んでいる。	外部研修（7月）の内容を伝達講習にするなどして、「身体拘束をしないケア」についての理解を促している。居室は内側から施開錠でき、玄関は日中開錠している。家族の了解を得て、玄関やベッドサイドにセンサーを施している。車にいると落ち着く利用者には、車の中へ自由に出入りできるようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明し、ご理解・ご納得をして頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	申し送りや全体会議・運営推進会議の場で機会を設けている。	法人3事業所合同の「家族の集い」、運営推進会議などで家族の意見を把握し、反映に努めている。契約書を玄関に掲示したり、毎月発行の「陽春の里からのお知らせ」に「ご相談などがありましたら遠慮なくお尋ね下さい」と掲載したりして、苦情の申し出などができる旨を伝えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会を設けているし、反映もしている。	管理者は、月1回のミーティングや事務所に設けた管理者ボックスへの投函などで、職員の意見を聞いている。職員の意見を反映し、居室担当者を決めたり「1日の流れ」の見直しを行ったりしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	整備に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などを積極的に受けもらうなどして個々のスキルアップを図っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的に会合を持ち、勉強会など開いたりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	難しい場合もあるが、信頼関係を構築できるように努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安やご要望にはいつも耳を傾けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけ必要としている支援を提供できるよう努力している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支えあう関係を築けるように努力している。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に入居者様を支えていく努力をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り支援している。	年賀状を書いた際に、出す相手について聞くなどして、これまでの関係の把握に努めている。利用者の馴染みのコーラスボランティアに訪問を依頼するなどして、関係が維持できるようにしている。昔の同僚が利用者を訪ねて来ることもある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わり合い、支え合えるよう努力をしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も相談や支援をしてきた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の思いや希望、要望の把握に努めており、伝えるのが困難な方の場合などその方の立場などに立って検討している。	居宅担当者のアセスメントや日々の言葉などから「事業所での生活になじめない」などの利用者の思いを把握し「事業所に慣れていただくためにどう工夫するか」を検討し対応している。把握が困難な利用者は言葉掛けを通して表情等から把握し検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取りなどを通じて快適な暮らしをして頂けることを目指している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	本人や家族から要望を聞き取り、居室担当者、看護師などと意見交換し、介護計画を策定している。長期的な目標は通常6ヶ月で見直す意向で、入院など、状態の変化が見られた際は、随時見直している。	訪問時に確認した介護計画書は、通常の見直し期間より経過していました。事業所が目安としている見直し期間に基づき、利用者の状態に即した介護計画を作成することが望まれます。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや全体会議時のケアカンファなどで情報の共有をはかり実践している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に多機能化は進めていないが、柔軟な支援やサービスを提供できるよう努力している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しながら生活を楽しんで頂けるよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適宜、適切な医療を受けて頂いている。	内科（月2回）および歯科医（週1回）の往診がある。契約時に協力医の受診説明をし、全員が受診している。眼科などへは家族や事業所が対応している。職員の看護師が週2回出勤しており、医師と連携し適切な受診となるよう努めている。毎月「陽春の里からのお知らせ」で、家族に状態を伝えている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室やMCWなどと情報交換などを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>地域の関係者とチームを組むまでには至らないが、かかりつけの医師、ご家族、事業所とが充分話し合い方針を共有している。</p>	<p>6月に「グループホームにおけるターミナルケア」を作成している。事業所でできることを説明し、利用者、家族、職員がその方針を共有している。協力医とも話し合っている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>OJTなどを通じて実践力を身に付けるよう努力している。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2度、災害を想定した避難訓練を地区の消防署の指導のもと行っている。</p>	<p>119番通報専用電話がある。1月に消防署立会いで避難訓練を実施している。地域との協力体制については、運営推進会議に消防署員も参加しており、助言などの協力を通して町内会に働きかける意向である。非常災害時の備品として水を準備している。不足品などのリストを作成し法人に購入依頼などを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その様に努力している。	個人情報を含む書類は、事務所内の鍵のかかる書棚に保管している。申し送りは、個人名を出さずイロハなどで行っている。職員は「約束ごと」の書面で人格の尊重などの内容を共有し『便が出た』などのあからさまな言葉は使用しないようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望や要望に沿って支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人その人によって違うが、その人らしい身だしなみなどになるよう支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望などをメニューに取り入れたり、買い出し、配膳、後片付など入居者と共に行っている。	訪問時、利用者は職員と一緒に同じ物を食べ、下膳や食器拭きなどを行っていた。利用者の好みを献立に反映し、食事を楽しめるようにしている。誕生会では、好みの手打ちそばを食べに行くなどの外出もしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養などきちんと計っている訳ではないが水分量などはチェックしている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアをしている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の自立に向けた支援をしている。	排泄のパターンは「健康チェック表」で把握している。おむつ使用から日中はリハビリパンツとパットに変更するなど、形態を変えて自立に向けた支援をしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘防止の為個々の方に応じた働きかけをしているが、医師とも相談し排泄コントロールにも努力している。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望があれば毎日でも入浴して頂いている。	お風呂は毎日沸かし、曜日や時間を決めていない。職員の声かけで入浴を促し、毎日や夜間の入浴など様々な希望にも応じている。入浴を好まない利用者には「髪をきれいにしましょうか」などタイミングを見て声かけし、入浴を促している。異性あるいは同性介助の希望に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ気持ちよく眠れるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬表を作成して常時見る事が出来るようにしている他、看護師と相互連絡し確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援できるよう努力している。	ひとりでの散歩を希望する利用者が数名おり、家族の了解のもと、電話を携帯し外出している。ドライブを兼ねた買物、喫茶店やファミリーレストランでの外食などにも出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の機能に応じて支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その方の希望や残存能力に応じて支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるように工夫もしている。	玄関の折りたたみ椅子、居間の畳敷、車椅子対応のトイレ、リフト浴などの設備がある。七夕飾りなど季節感を取り入れた行事を行っている。心地よく過ごせるよう、西側の居室にグリーンカーテンが施されていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族の意向をくみながら居心地良く過ごして頂いている。	事業所の備品はエアコンとベッドである。居室の雰囲気は様々で、部屋ごとにテレビ、仏壇、写真、椅子、髪飾りなどが持ち込まれていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で自立した生活を送れるように支援している。		